

見える優しさ次々と

明石市「障害者配慮条例」施行から半月



車いすでも出入りしやすいよう、市の助成を受けて導入した簡易スロープ

＝明石市本町1のくるみや本店で

助成制度は、市民や事業者らが過重な負担を理由に障害者への「配慮」を断念しないよう応援する目的で設けた。飲食店の点字メニューなどコミュニケーションツール製作費(上限5万円)▽筆談ボードや折りたたみ式簡易スロープなど物品購入費(同10万円)▽簡易スロープや手すりなど工事施工費(同20万円)——といった補助が受けら

簡易スロープ設置など

段差があり、スロープは障害者だけでなく、ベビーカーを連れた母親からも好評だという。取締役の森本賢一郎さん(35)は「後回しにしてしまうことが多いテーマだが、市の助成を受けて市の方と一緒に考え、短い期間で導入できた。地元に根付いた店づくりを心掛けているので、障害者の方も安心してもらえるきっかけになれば」と話す。

助成で民間業者後押し

明石市が今月1日に施行した「障害者に対する配慮を促進し誰もが安心して暮らせる共生のまちづくり条例」に基づき、市の助成を受けて段差解消の簡易スロープや点字メニューなどに取り組んだ民間事業者が、14日時点で早くも6事業者(助成件数10件)に上ることが明らかになった。市が記者会見で公表した。他にも8事業者(11件)が申請中で、泉房穂市長は「具体的な形で、まちに優しさが見えてきた。行政として責任を持って後押しを続けたい」と話す。

【駒崎秀樹】

れる。14日現在で実施されたのは点字メニュー6件、簡易スロープ1件、筆談ボード3件。条例制定に向けた検討委に参加した民間事業者を通じて広がったという。

同市本町1の洋菓子店「くるみや本店」では、簡易スロープ、点字メニュー、筆談ボードを併せて導入した。入り口に8センチの